

那珂川アユ漁獲量調査(平成24年度)

誌名	栃木県水産試験場研究報告
ISSN	13408585
著者名	吉田,豊 高木,優也
発行元	栃木県水産試験場
巻/号	57号
巻号補足	
掲載ページ	p. 6-7
発行年月	2014年2月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



那珂川アユ漁獲量調査（平成 24 年度）

吉田 豊・高木 優也

目 的

那須岳を水源とし、茨城県ひたちなか市で太平洋に注ぐ那珂川は、アユの河川別漁獲量が全国第1位を誇っている。¹⁾豊富な那珂川のアユ資源を今後も継続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行うことが必須である。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況について調査した。

材料および方法

釣りによる漁獲状況 調査票 150 枚を栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員 4 漁協に対し、前年度の賦課金納入者数に応じて一定割合になるよう配布した。各組合それぞれが選定した調査員に対し 6 月 1 日の釣り解禁から禁漁までの間、釣りをを行った日の釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を 0 として扱った。回答率は 71% であった。

投網による漁獲状況 調査票 50 枚を釣りと同様の方法で各組合の調査員に配布し、調査を行った（投網は 7 月 10 日から区間毎に順次解禁される）。回答率は 62% であった。

釣獲魚の体重 各漁協の組合員各 1 名に対し 6 月から 10 月の漁期中に釣行した場所と釣獲したすべてのアユの体重、下顎側線孔による放流魚、天然魚の判別結果について記録を依頼し、黒羽・湯津上、烏山、茂木の各地区で釣獲されたアユの月ごとおよび旬ごとの平均体重と放流魚の割合を求めた。

結果および考察

釣れ具合・獲れ具合 1 人 1 日あたりの釣れ具合は 5.2 尾/人/日で、前年（9.4 尾/人/日）の約 55%，平年（10.2 尾/人/日、平成 6 年から 23 年までの平均）の半分程度と大きく低迷し、調査開始以来最低を記録した（図 1）。月別でも漁期を通して平年の半分程度で推移した（図 2）。この理由として、今年度は遡上群数が少なく、特に早期遡上群が全く確認されなかったことや、前年度と同様に 8 月中旬にエドワジエラ・イクタルリ感染症が発生したことが影響したものと考えられる。

1 人 1 日あたりの投網による獲れ具合は 0.9kg/人/日で、前年の 38%，平年（3.1 kg/人/日、平成 14 年から 23 年までの平均、以下「平年（平成 14 年以降）」とする）の 30%にとどまり、釣りよりもさらに低迷した。

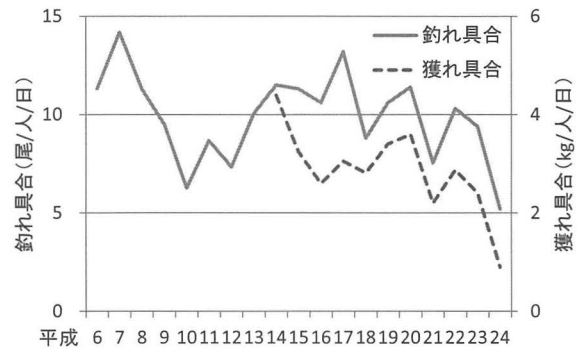


図 1 釣れ具合および投網による獲れ具合の推移

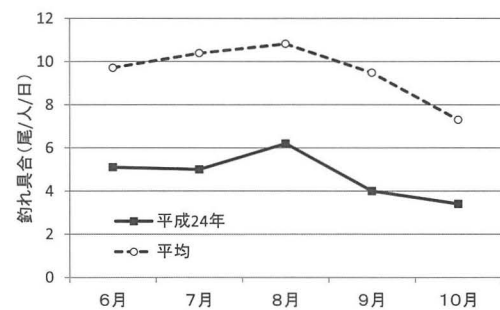


図 2 月別釣れ具合の推移

釣獲尾数・漁獲重量 釣獲尾数は 84 万尾で前年の約 1/3，平年（462 万尾）の約 1/5 で、調査開始以来最低を記録した（図 3）。釣獲重量は 70t で、前年（126t）の約 55%，平年（232t）の約 30%と調査開始以来最低を記録した。これらの理由としては昨年度と同様、釣れ具合や後述の入漁者数の低迷が影響したものと考えられる。

投網による漁獲重量は 10.5t で、前年の約 1/6，平年（平成 14 年以降、146.2t）の 7%と、釣りよりも大きく落ち込み、調査開始以来最低を記録した。

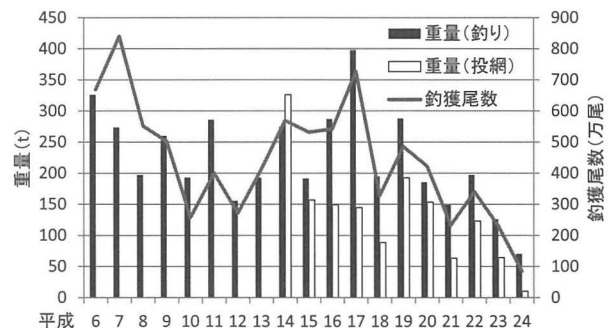


図 3 釣獲尾数・釣獲重量・投網による漁獲重量の推移

釣獲魚の体重 釣獲魚の年間の平均体重は 84g で、前年（64g）の約 1.3 倍，平年（53g）の約 1.6 倍となり、調査

開始以来最大となった(図4)。旬別では平年と比べ、6月上旬では同程度であったものの、その後は急速に大型化し、7月下旬以降では約2倍の平均体重となった(図5)。これまでの調査から、釣獲魚の体重は遡上群数との間に負の相関関係が認められている。²⁾したがって、今年度の釣獲魚の体重が大きかった理由として、天然魚の遡上が少なく生息密度が低かったことが影響したと考えられる。

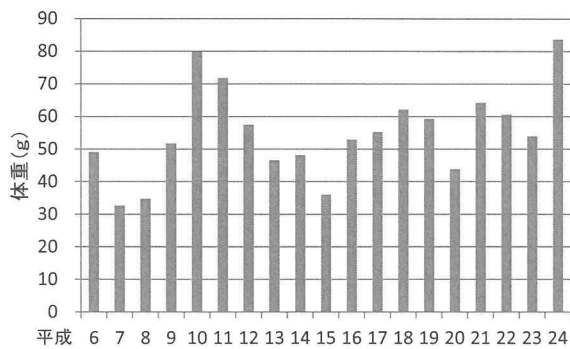


図4 釣獲魚の体重の推移

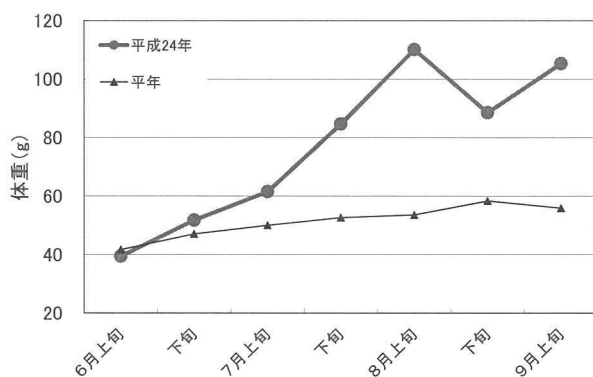


図5 月別の釣獲魚の体重の推移

釣獲魚に占める放流魚の割合 黒羽・湯津上地区では6月に85%を占めた(図6a)。当地区での釣獲魚に占める放流魚の割合は、例年6月では半分程度を占めるものの、それ以降は20~30%程度と低くなる。しかし、今年度は7月から8月にかけても60~70%程度で推移し、平年よりも釣獲魚に占める放流魚の割合が高かった。烏山地区においても、データが得られた7月および8月では30~40%程度で推移し、平年よりも放流魚の割合が高かった(図6b)。なお、茂木地区ではサンプルが十分に集まらなかったため、今年度は解析できなかった。

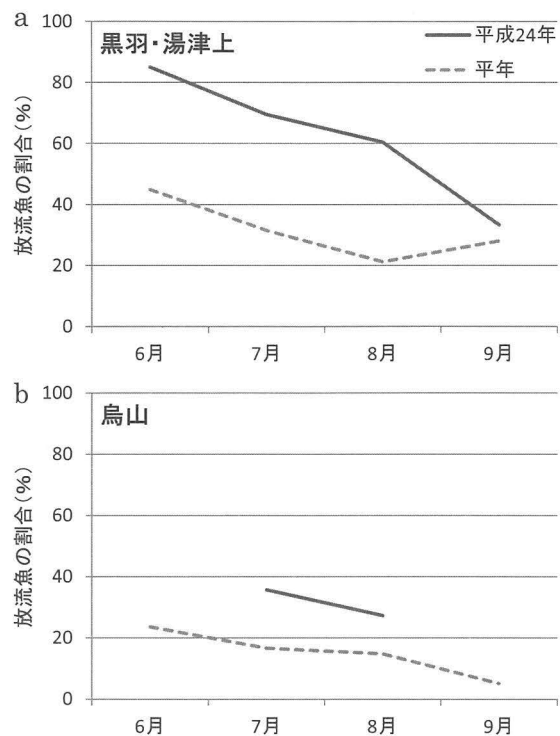


図6 地区および月別の釣獲魚に占める放流魚の割合

入漁者数 釣り入漁者数は約16万人で前年(25万人)の約65%、平年(45万人)の約35%にとどまり、前年度に続き調査開始以来最低を記録した(図7)。投網入漁者数は1.1万人で前年より1.8万人、平年(平成14年以降、4.6万人)より3.5万人少なく、調査開始以来最低を記録した。これは前年度に引き続き、東日本大震災に伴う福島第1原子力発電所の事故による風評の影響に加え、漁期を通じた漁獲の低迷が影響したものと考えられる。

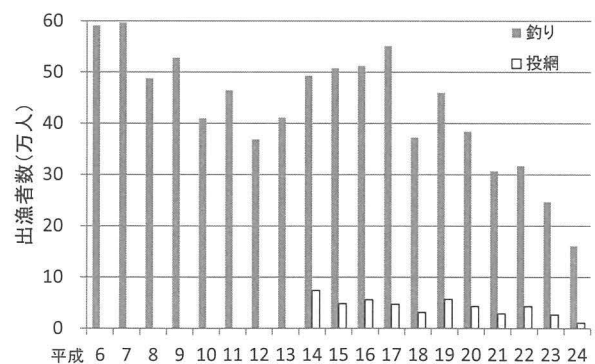


図7 入漁者数の推移

引用文献

- 1) 平成21年度漁業・養殖業生産統計年報。農林水産省大臣官房統計部、東京、2010。
- 2) 吉田豊。栃木県那珂川におけるアユの生産力。環境調和型アユ増殖手法開発事業報告書2007；72-82

(指導環境室)

那珂川アユ漁獲量調査（p6-7）

平成 24 年度の那珂川におけるアユの釣りや投網による漁獲状況について調査しました。平均釣れ具合は 5.2 尾／人／日と調査開始以来最低を記録し、この理由として遡上群数が少なく、特に早期遡上群が見られなかったことが影響したものと考えられました。また、釣獲尾数が 84 万尾、釣獲重量が 70t、釣り入漁者数も 16 万人と、これらについても調査開始以来最低を記録しましたが、釣獲魚の体重は 84g で調査開始以来最大となりました。投網については、平均獲れ具合が 0.9kg／人／日、漁獲重量は 10.5t、入漁者数は 1.1 万人で、いずれも調査開始以来最低を記録しました。